

今回の交流登山コース選定については、コロナ渦によりソーシャルディスタンスがとれて介助量も軽減し、登山時の前後を1m開ける等の感染対策が十二分に考慮した登山コースにいたしました。

鹿鳴超連山・経塚山登山コース説明

日出町豊岡地区の背後に連なる山々が、その名も優しい鹿鳴越（かなごえ）の連山である。その山々の中で、展望に恵まれて、初夏に花咲くミヤマキリシマツツジで知られているのが経塚山である。

JR豊後豊岡駅に降りたら、駅前の町並みを右手にたどる。国道10号線が海岸近くに見える前の旧道である。左手に小学校が見えるから、その横の道に入って裏手に回り、北に向かう。まもなく道が左右に分かれるので、右の道を選ぼう。左の道からの集落で、由緒のある神社や魚見桜などもある。

ゆるやかに登っていくと、最近完成した広域農道にぶつかる。

そこに「こけし岩」がある。名前の通りコケシの形をした石が路傍に立っている。

農道を西に向かうと山田で、きれいな水が湧いている「山田湧水」である。

これから山道にさしかかるので水筒を満たしておきたい。

登山道は深い谷間に入っていく。ポイントで説明するように鹿鳴越には東西2つの峠があった。これはその西の方の峠に登る道だったもの。途中に一目城と呼ぶ石切場の跡もある。森の中の登りに汗をかいた後、峠にたどりつく。広域農道の続きの舗装されたきれいな道が待っているから、一休みしたら左に向かう。600mほどもたどると左手に入る狭い車道がある。経塚山への小さい標識があるだけだから見落とさないように。車道を登るとマイクロウエーブなどの鉄塔があり、右にクサリを張った道の方に入るとやがて草道になり山頂に立てる。



▼**鹿鳴超連山・経塚山** = 七つ石山（630m）を主峰として、西に経塚山（610m）から鳥屋岳、唐木山など、東に板川山、城山、百合野山などがあり、その総称を鹿鳴越と言っている。「越」の字のつくのは、ここに東西2つの峠があったため、国道10号線の赤松峠が開かれるまでは、これが豊前街道の主要路だった。経塚山コースで通るのは西の峠で、どちらかと言えば東の峠を見下ろす方がよく利用されたようだ。城山は東の峠道を見下ろす要地に置かれた城の跡である。中世に島津氏と大友氏が争った、いわゆる豊薩の戦いの際は、薩摩軍の豊後侵入に慌てふためいた大友義統がこの峠を越して宇佐に逃れ、近世では西南の役で西郷軍に呼応した中津の増田宋太郎の一隊が大分県庁を襲うため越えた。連山は日出町と山香町の境になるが、全体的に山香側が緩やかで、山と言うより広い野と言った感じ。それに比べ日出側は急斜面で、別府湾に面して断層崖を連ねており、湾岸から仰ぐと堂々とした山並みである。経塚山は山頂部は狭い草地になっており、展望に恵まれる。普段は高いところでしか見られないミヤマキリシマが山頂部に群生しており、初夏の開花時にはたくさんの人が登る。また七つ石山には古代のノロシが置かれ、高崎山などと連絡したいという。

▼山田湧水 =
ちこちで湧水
山田湧水もそ
恵に感謝する



山が断層の崖であるだけに、その麓にはあ
が見られる。
の一つである。ほとりに祠があり、水の恩
人々の姿が美しい。

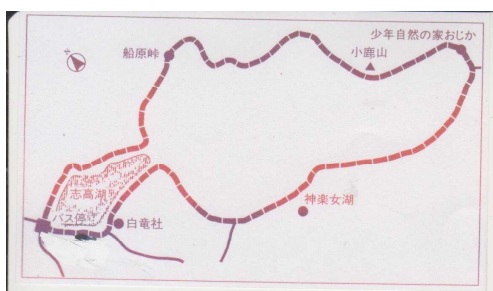
▼こけし岩 = コケシ形をした岩が路傍に立つ。子宝に恵まれない女性が撫でて祈ると子
どもが授かるとされが、その形から理由はお分かりいただけよう。
そこで別名を夫婦岩とも言う。

小鹿山・東山ハイキングコース案内

奥別府の名所・志高湖から伝説の小鹿山に登り、菖蒲で有名になった神楽女湖へ下ろうと
いうコース。四季折々、いつでも良いが、とりわけ新緑と菖蒲の季節をおすすめする。

別府から枝郷行きのバスに乗り、志高湖で下車。駐車場から北側の湖畔に沿って歩き始
めよう。一番奥まで行って左折、昭和天皇をお迎えして植樹祭が行われた際の植林地の端
っこの分岐を北東に登ると船原峠に着く。峠には標識が無いが、尾根筋には防火帯がきれ
いに切られているので、右に曲がり、これを伝っていく。小さなアップダウンの繰り返
しの登山道で春や秋には小さな花が迎えてくれる。湖やあたりの山谷を眺めながら、のんび
り進もう。最後にはちょっと急な登りがある。雨上がりなどは滑りやすいので注意したい。
登り詰めれば小鹿山の山頂である。樹林帯なので展望にはあまり恵まれないが、山頂奥の
展望所からは樹間に別府の市街地をかいま見ることができる。

山頂から少年自然の家「おじか」までは急な下り、自然の家に泊まった少年達が良く登
る道で、自然の家では「心臓破りの坂」とも呼んでいる。とはいえ距離はさほどではない
し、転ばないように注意しておれば直ぐに着く。



自然の家から神楽女湖までは、小鹿山の南の麓を回
って行く遊歩道で、ほとんど平坦と思ってよい。神
楽女湖一带は菖蒲の花のシーズンにはたいへんな賑
わいを見せ、車も入りづらいが、その点、歩くのは
気楽だ。神楽女湖から志高湖までは舗装された遊歩
道が付けられている。少し登り下りをするが、キャン
プ場のところで志高湖湖畔にでる。

▼志高湖 = 奥別府の高原にぽっかりと開けた瞳のよう
な湖。標高580m、一周1.5 km、600~700m級の山に囲
まれた湿地だったのを灌漑用にせき止めて造られた湖で
明るい湖面には由布岳、鶴見岳の山群が影を映し、ボ
ートが浮かび、白鳥や鯉が泳ぎ、キャンプ場があり別府市
民の憩いの広場になっている。

伝説によると、女山の鶴見岳をめぐる、男山でライ
バルの由布岳と祖母山が激しく争った。結局、恋の勝利者となったのはハンサムな由布岳



だった。敗れた祖母山は日向（宮崎県）との境まで去り、深い樹林を纏い身をひそめたが、去るにあたって悲しみの涙を滝のように流した。それが溜まって志高湖になったとか。

▼**小鹿山** = 標高728m、山の名は革聖こと行円上人の伝説に由来するという。上人はもともと由布院に住み、狩りを仕事とした若者。彼がある日、この山の麓で雌のしかを射た。その鹿は孕んでおり、息を引き取る寸前に子を産み、それをなめてやりながら死んだ。後悔した若者は仏門に入り、常に鹿の革で作った衣と頭巾をまとい、諸国を遍歴して修行する。寛弘元年（1004年）に京に入った時は立派な僧になっており、その異様な姿から革上人と呼ばれたが、その徳は次第に京一円に知られるようになった。時の天皇は行円のために堂を設立、彼はこの寺を小鹿山行願寺と名付けた。道路改築など社会事業に務め寛仁4年（1020年）ごろ没した。

▼**神楽女湖** = 志高湖より比べると小さな湖だが、その湖畔を利用して菖蒲園が設けられ、近年になって一躍知られるようになった。菖蒲はおよそ26万本という。



大分合同新聞「大分のハイキングコース100」平成7年3月25日発行より引用

